

2017年(平成29年)

4月28日

金曜日

## 朝日新聞

## 町医者生涯現役をめざす

恩師の五十嵐正紘・自治医大教授(故人)の言葉をいただき、勝手に「出前医者」を名乗っているが、こんな医者になるとは自分でも予想すらしていなかった。父の医院の後も継がずに、思いと夢だけを追い、気が付いたら、来年は高齢者の仲間入り。人生の第4コーナーを曲

人生支える在宅医療

太田秀樹 16

がり、最後の直線ではないか。現在は小山、栃木、茨城・結城の各市で訪問看護ステーションや在宅療養支援診療所、介護老人保健施設、グループホームなどを運営している。組織は大きくなったが、より良い医療を提供したいという理念は全く変わらない。新聞によるとこの地

域は在宅看取りが多く在宅医療は進んでいるようだ。在宅医療が地域を作り、文化を変えるところ信じて頑張ってきてよかった。

ここ数年は在宅医療関係の会議や講演、執筆などで忙しくしているが、週3回の午前の外来診療は欠かさずやっている。看取った患者のご家族もたくさん来院してくれて、世間話に花が咲くこともある。しかし、その方も年を重ね、自転車での通院がタクシーとなり、結局往診に

なる人も少なくない。いきなり往診先で「死亡診断書を2通頼む」と言われ、「2通？」と聞き返すと、「私が先か女房が先か、わからんから」。また、あるとき病院への紹介状を書いてみると、「私は年だから、太田先生で十分」と言われ、複雑な気持ちになったこともある。

最近には往診の専門医もいるようだが、外来診療も結構楽しい。生涯現役を目指しアクティブエイジングを実践したい。町医者もいいものだ。(おわり)



おた・ひでき 1953年、奈良市生まれ。自治医大大学院修了。92年「おやま城北クリニック」開業。現在は医療法人アスムス理事長として在宅医療を推進。

◇5月12日の次回からは、元歌手で家庭犬しつけインストラクターの佐良直美さん(那須塩原市在住)が登場します。

とちぎの風